

レファレンス・コーナー -- 地球温暖化を知るために（ブックシェルフ）

著者	荻野 洋司
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	150
ページ	59-59
発行年	2008-03
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00005062

レファレンス コーナー 地球温暖化を知る ために

荻野洋司

近年、大型台風などいわゆる異常気象が増加している。しかし、本来気象現象には異常も正常もない。希に起こるか頻繁に起こるかという程度の違いがあるのみ。問題は社会に災害を及ぼす気象（極端現象という）が日常的な出来事になることにある。

温暖化とは地球全体の平均気温が上昇していくことを意味している。

この事実については論争の余地はない。そして、昨年の国連IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第四次評価報告書で、二〇世紀半ば以降の温暖化のほとんどは人間活動が引き起こした現象、とほぼ断定している。温暖化の進行と極端現象との直接的関係は不明であるが、前者により後者が増大することは予測されている。気候変化はこれだけではない。氷河の後退、海面水位の上昇、局地的な降雨パターンの変化、害虫・病原菌の分布変化など、気候変動による影響は先進国のみならず途上国も含む世界全体の問題となっている。

この温暖化問題に関して、日本で

は欧米諸国とは異なり関心は薄かった。が、昨二〇〇七年一月米国元副大統領アル・ゴア主演のドキュメンタリー映画『不都合な真実』の公開及び同名の本の出版を契機に変わった。更に関心を高めるイベントとして、二月～一月に、前述のIPCC報告書計四書の発表、ゴアとIPCC両者のノーベル平和賞受賞そして二月の第一三回国連気候変動枠組み条約締約国会議と続き、京都議定書での温室効果ガスの排出削減の実施の開始年となる今年には七月に洞爺湖での環境サミットが予定されている。

ここでは、温暖化問題への理解を深め、問題に対する判断を形成する参考にするため、昨年に刊行された一般向けの図書を中心に紹介する。

最初は、気象とか気候とは何か、という基本的事項全般に関するビジュアルガイドブック。B・バックリ―他著・高橋さきの監訳『気象―ダイナミック地球図鑑』（新樹社 二〇〇六年）。原書の出版は二〇〇四年で米国人向けではあるが、地球規模の気象の仕組みを簡潔な説明と豊富な写真で概説している（*）。

次は、話題となった問題提起のゴア関連のもの。映画のDVD版『不都合な真実』（パラマウントホームエンタテインメントジャパン 二〇〇七年）及びアル・ゴア著・枝廣淳子訳『不都合な真実―切迫する地球温暖化、そして私たちにできること』（ランダムハウス講談社 二〇〇七

年）そして同『不都合な真実―地球温暖化の危機―ECCO入門編』（同 二〇〇七年）。映画は温暖化を警鐘するゴアの講演を中心とするもので、著作もそれを忠実になぞったビジュアルなもの。しかし、学者でなく政治家であるため、記述もメッセージ中心で不十分なため解説書とは言えない。後書は、前書にあるゴア個人の経験部分などを割愛、頁数や判型でもコンパクトに再編集、価格も半額以下にしたもの。なお、DVD版には映画完成後に判明した事項をゴアが解説する特典映像が付いている。これらに不足する背景情報を提供

し、温暖化の全体像を図版中心に解説しているのは、K・ダウ他著・近藤洋輝訳『温暖化の世界地図』（丸善 二〇〇七年／原書二〇〇六年）で、温暖化と気候変化に関し、温暖化の兆候、それを強いるもの、気候変化を駆動するもの、予想される結果、対応策、CO2やメタン排出量などの数値表、という構成で、地球的視野でデータの解析結果や研究成果の知見を視覚化しておりわかりやすい。また『図解地球の真実―ひと目でわかる温暖化の今と未来』（別冊宝島 一三九七号 二〇〇七年）は、第一部で地球規模の温暖化と環境問題を、第二部でクラゲ大発生など日本での問題を図版中心に説明している。両書は手元で参照するハンドブックとなっている。

また、一冊に纏めた図書として、船瀬俊介著『テロより怖い温暖化』

（リヨン社 二〇〇七年）は、予想される恐ろしい（？）影響を列挙し温暖化阻止の案を提示する。山本良一著『温暖化地獄―脱出のシナリオ』（ダイヤモンド社 二〇〇七年）は、温暖化とそれにどう対処するかをテーマに、この一年の世界の動向を論じる。「手遅れになる時点」に注意を喚起、解決の鍵とする「環境技術革新」などを訴える。

最後に温暖化問題への疑問や批判を扱った図書を紹介する。武田邦彦著『環境問題はなぜウソがまかり通るのか1/2』（洋泉社 二〇〇七年）で1では第三章、2では第一章、また、武田邦彦他著『暴走する「地球温暖化」論―洗脳・煽動・歪曲の数々』（文藝春秋 二〇〇七年）で第一章がそうである。

なお、IPCCの各報告書の日本語訳であるが、それらは気象庁などのウェブサイトで見られる。また、今回の報告書での気候モデルの作成事情などに関しては、『気候モデルとその評価』の章の執筆者の一人・住明正が自著『さらに進む地球温暖化』（ウエッジ選書 二〇〇七年）で解説している。

*気候変動も含め、世界での稀少な現象の迫力溢れる大判の画像集がある。S・ダンロップ著・乙須敏紀訳『気象大図鑑』（産調出版 二〇〇七年／原書二〇〇六年）で必見。

（おぎの ようじ／アジア経済研究所図書館）